

市政を問う！ 一般質問



日野 猛仁 議員

人口減少対策を問う

問

「将来人口の見通し」を推計すると、平成27年には人口3万7450人、老年人口の構成比29・4%となり、人口の減少、高齢化が更に進む。現状と今後の定住化対策及び流失抑制策を問う。

答 中村市長

これまで、若者の定住化を促進するため、工業団地を造成し、優良企業を誘致して商業機会の拡大を図るとともに、住環境や道路交通網の整備な

ど、安全安心なまちづくりに取り組んできた。

しかし、これといった企業を抱えず、雇用の場が乏しい中山・双海地域では、人口減少に歯止めがかからず、過疎化が進行している。

今後、本市の持つ豊富な農林水産資源を有効に活用し、各種産業を振興し、商業の場として魅力を出し、若者の流出を防止し、定住化を図りたい。

四国縦貫自動車道中山地区にICを

問

高速道路無料化社会実験に伴い、国道56号の交通量が激減し、中山地域の過疎化の進行が危惧されている。中山地区にインターチェンジ（IC）設置の可能性を問う。

答 中村市長

中山ICの設置は、伊予大洲間が開通する以前から、旧中山町の重要な地域課題であった。

平成14年には、設置の可能性についての調査報告書を作成し、知事陳情を毎年重ねてきたが、設置には多額の費用が必要なことなど、解決すべき条件も多く、事業に至っていないのが現状である。

6月28日に開始された高速道路無料化の社会実験に伴う伊予内子間の国道通行量の減少は、予想をはるかに超えた。過疎化が進む中山地域にとつては、大きな危機である。

今後は、今まで以上に県担当課とも連携を密にして、国土交通省など関係機関に強く要望を行うとともに、精力的に条件整備に努めたい。

「歴史資料館」建設の必要性

問

①「郡中まち物語館」整備事業の目的を問う。
②「歴史資料館」建設の必要性及びこれからの文化施設のあり方を問う。

答 総務部長

①郡中灘町にある宮内邸は、郡中の繁栄の歴史の原点であるといっても過言ではない。宮内邸を中心とした一帯を「郡中まち物語館」と位置付け、歴史と商いを今に伝える拠点機能を持たせる。周辺



9月に市内で開催されたフォーラム

整備により地域商店街、市の施設を一体化した伊豫國「あじの郷」を実現し、松山を初めとした周辺地域からの来訪者の増大や交流人口の拡大による、人・ものの流れ、あるいは賑わいの創出を目指そうとする構想である。

②本市は、県内でも貴重な歴史遺産が数多く残っており、これからも適切な環境で保管し、広く市民に展示公開、学習の機会に供したい。本市の歴史や文化財保護に興味や関心をもた理解を持つ人材を多く育て、歴史資料等を積極的に活用しながら、次代に受け継がなければならない。歴史資料館は、その重要な役割を果たす中核的機能を持つと位置付けられるものである。

その他の質問事項

- ・ 戦略的地域経営
- ・ 組織機構再編
- ・ 公共施設へのアセットマネジメントの取組